

軽井沢の 50 年後、100 年後を考える

「22世紀風土フォーラム」 基本会議がスタート

5月19日、発地市庭のイベントスペースで、第1回軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議が開かれた。この日は知識経験者7名、公募による3名、町の職員5名による計15名が「基本会議」の委員として顔を合わせ、自己紹介や意見交換などを行った。この会議は軽井沢町が2014年12月に発表した、「軽井沢の未来を考えるグランドデザインを具体的に進めて行くための組織の一つ。『軽井沢22世紀風土フォーラム』とは、具体的にどんなものなのか、詳しく見てみよう。



事務局を、人々が交流する場でもある発地市庭に置くことで、住民と行政をつなぐ新しい窓口機能にした。ここで基本会議を開いたり、住民に立ち寄ってもらったりと参加型の拠点にしたい意向だ。広報かるいざわ6月号でも「風土フォーラム事務局へお出かけください。グランドデザインやまちづくりについて語り合いませんか」と呼びかけている。気軽に参加してみてもはどうだろうか。

22世紀風土フォーラムの コンセプトは

グランドデザインの基本的な考え方は「風土自治」という新しいコンセプト。町民も別荘住民も平等に参加し、行政も一員として協力するという新しい考え方だ。これを具体的に進めるために準備委員会を作り、町の若手職員が1年をかけて検討した。

構成は2段階

フォーラムの中心組織になるのが「基本会議」。この会議は年6回、公開して開く。そこで出たテーマによっては別のプロジェクトチームを適宜設置する。

何を検討するの？

検討するのはランドデザインの
中にあげられている地域別のエリア
デザインの具体的な進行計画につい

て。また、町長からの諮問によって設置されるケースもあり、従来の「まちづくり委員会」は組織体制を見直し、「まちづくり活動支援部会」として基本会議に並列して活動する。

町民、別荘住民はどのように参加する？

行政主導型の地方自治は住民参加
といっても限界がある。ではどのよ
うに進めていくのか。フォーラムの

第1回目で話したことは？

5月19日、発地市庭イベントスペースで行われた第1回の会議では、各委員の自己紹介があり、会長に横島庄治さん、副会長に鈴木幹一さんが選出された。意見交換が行われ、風土フォーラムが機能するためには「町民と別荘所有者のコミュニティがミックスし、相互理解することが必要」「明快なビジョンを作りアクションプランをやっていくべきだ」など、これからの進め方についての意見があがった。

新しい地方自治を目指して

基本会議、プロジェクトチーム、事務局すべてに共通する姿勢は、新しい地方自治の「実験工房」というとらえ方だ。町役場の職員全員が何らかの形で関わり、住民サイドも全員参加型としての理解と努力が必要とされる。

「究極の地方自治は住民自治」と言われるが、それはなかなか難しい面がある。しかし、「軽井沢の実験はその目標へ近づくための挑戦」という意気込みが感じられる。「行政主導」から「住民参加」、更には「住民主導」と「行政サポート」という高いレベルを目指そうという点は評価したい。

基本会議の委員はどんな人？

風土フォーラム基本会議の委員は町役場職員 5 名、知識経験者 7 名のほか、公募で選ばれた 3 名がいる。公募で選ばれた 3 人とは

貫名礼恵さん

軽井沢へ移住して5年、軽井沢を愛する気持ちは年々強くなるという貫名さん。



『軽井沢ランドデザイン』の中で提唱されている住民主体の地域経営である“風土自治”という考えに非常に共感し、まちづくりに関わっていきたくと思いました。仕事や趣味を通して別荘オーナーや地元の方々と触れ合う機会も多く、これらの繋がりを生かしながら、30年代代表として町民・別荘住民・行政との架け橋になりたいと思っています」

志立正嗣さん

昔は別荘族だったが、今は
軽井沢の町民となって新幹
線通車後、別荘は買入らな



て見る目、町民になってみる目、それぞれの視点から別の軽井沢が見えてくるという。「軽井沢グランドデザインの哲学に共感しています。町民、別荘所有者、そして移住者。様々な背景を持つ住民による、よりよい軽井沢を目指す風土自治の実現に尽力します。世界のリゾート地に対してリーダーシップを発揮する軽井沢を創り上げていきたいと思っています」

島崎アイコさん

島崎さんは子どもを対象とした“遊びと学びの参加体



施をしている。応募したのは「軽井沢の未来を創っていく場に、子ども達が参加できれば」との思いから。「生活の中から生まれる子どもならではの視点や発想で未来の軽井沢を思い描き、行動していく機会を提案したい。軽井沢の未来に対して、子ども達のアイディアが集まる仕組みづくり等も試みたいですね」

軽自動車 3周年祭!!

届出済 未使用車専門店!

ロイヤルカーステーション

佐久インター店

2014.5~2015.4 中古車販売台数

第1位

県下

※長野県に本社を置く、自動車販売企業に2014年中古自動車販売台数(一般小売)です。
※2013.7版自動車流通誌掲載

土日祝:あさ9時~よる7時まで、平日:あさ10時~よる7時まで営業

届出済 未使用車 専門店!!

佐久インター店

150台以上!

佐久インター店
在庫台数

69.8万円 1台限り

Daihatsu Mira

BodyColor/アイボリー
H27年式 ■車検30/9
走行距離5km ■インパネAT
No.941 ■リ済別
【主要装備】フル装備:Wエアバック、安全ボディ、キーレスABS、サイドリフレクト

CVT 2WD 届出済 未使用車

79.8万円 1台限り

Daihatsu Mira

BodyColor/ブラック
H27年式 ■車検30/12
走行距離5km ■インパネAT
No.238 ■リ済別
【主要装備】フル装備:Wエアバック、安全ボディ、キーレスABS、サイドリフレクト

CVT 4WD 届出済 未使用車

89.8万円 1台限り

Suzuki Wagon R

BodyColor/ブルー
H28年式 ■車検3/11
走行距離5km ■インパネAT
No.950 ■リ済別
【主要装備】フル装備:Wエアバック、安全ボディ、電格ミラー、キーレスABS

CVT 2WD 届出済 未使用車

99.8万円 1台限り

Suzuki Spacia

BodyColor/ピンク
H27年式 ■車検30/9
走行距離5km ■インパネAT
No.795 ■リ済別
【主要装備】フル装備:Wエアバック、安全ボディ、電格ミラー、キーレスABS、サイドリフレクト

CVT 2WD 届出済 未使用車

届出済 未使用車専門店

ロイヤルカーステーション 佐久インター店

上信越自動車道佐久インターチェンジ下車
左折してすぐ目の前

〒385-0023 佐久市岩村田北1-14-1

TEL 0267-66-3655

この看板が目印!!

自社整備工場完備!!

届出済未使用車とは?

届出済未使用車とは初年度登録された車両で、かつ、往復や運行に供されてはいない車両のことと定めます。

全車メーカー保証

メーカー保証を継続しておりますので、初年度登録から3年、または、走行距離6万kmまでの部分保証が、全車に付いて安心です。

※表示価格は全て消費税を含んでいます。ご購入には保険料・税金(消費増税除く)・リサイクル料・登録に伴う諸費用及び整備料が別途必要です。※全車1,000kmまでの保証付。全車リサイクル料金を支払い済み。リ済別とは、リサイクル料金を預託済。購入時に別途必要となります。※当店で使用する「未使用車」の表記は届出済未使用車を意味するものです。※車検は、はるばるバスをご購入いただきます。掲載車が広告制作期間中に売れてしまう場合がございます。その際はご容赦下さい。